

沙羅の樹文庫だより



海の詩

なみだは 人間のつくることのできる
一番小さな海です

つきよのうみに いちまいの
てがみを ながしてやりました

つきのひかりに てらされて
てがみは あおくなるでしょう

ひとが さかなとよぶものは
みんなだれかのてがみです

(後略)

(寺山 修司)

***児童書が5000冊
突破しました!***

◆2012・文庫の催し物◆

7月15日夕、ぜひ、お出かけください!
高原駅の樹齢100数十年のくすのきの梢を
わたる風に吹かれて物語の世界へ

☆海の日のおはなし会☆

午後5:00~7:30 伊豆高原駅・大楠の下

- 1部 文庫の子どもたちのお話を中心に
- 2部 うたと音楽
- 3部 おとなのしっとりとしたお話

♥文庫開館記念子どものためのおはなし会♥

7月16日 午前10:30~12:00 (文庫で)
ベテランのおばさんたちから子どもたちへ
手遊びとおはなし・紙芝居

☆屋下がりのひととき読書会☆

(好きな本についておしゃべりしましょう no.2)
未定(11月頃?)

♪秋の夜長のおはなし会♪

10月20日 午後5:00~7:00(おとなの人向け)

★★クリスマス・おはなし会・お楽しみ会★★
12月16日(日)予定

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆7月は通常 14日(土)、15日(日)

◆8月は、16日(木)~19日(日)

★開館時間は午後1:00~5時です。日曜のみ午
前10:00~午後3:00。ご注意ください。

◆9月は通常 15日(土)、16日(日)

◆10月は通常 20日(土)、21日(日)

◆11月は通常 17日(土)、18日(日)

※文庫の時間：土曜日は午後2時~5時、日曜日は
午前10時~午後3時

※毎月開館日の日曜には、「子どものための小
なおはなし会」があります。

午前10:30~11:00

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》

おはなし・沙羅の勉強会

毎月第3土曜 11:00~13:00

新しく入った子どもの本2012.7

絵本:『パンケーキを食べるサイなんていない?』(アンナ・
ケンプ文 BL出版11)『ぼくがきょうりゅうだったとき』
(まつおかたつひで作・絵 ポプラ社11)上記2冊低学年
課題図書 『とつともとつともあいたい!』(シムズ・
タパック作 フレーベル館09)『よいい ドン!』(ビーゲ
ン セン作 絵本塾出版12)※版元寄贈

読み物:『電車で行こう!5 北斗星に願いを』(豊田巧作 集
英社12)『真夜中の動物園』(ソーニャ・ハートネッ
ト著 主婦の友社12)『星と神話 物語で楽しむ星の世
界』(井辻朱美監修 講談社12)★『七夜物語』児童書に。

文庫あれこれ◆最近文庫便りを東京で書き始めるこ
とが多くなりました。以前のように、前日文庫につい
てから、一夜で作成し終える自信がなくなったよう
です。◆そう言えば、暑さを暑いと感じられなくて、老
人は熱中症に、とニュースが伝えるのを聞いて、以前
は季節最初に半そでになって、西村さんが半そでにな
ったから夏が来た、と言われた暑がりの私がこの夏、
暑さを感じられなくなって、あ~、本当に老人になっ
てしまったのか、とがっかりしています。横着にかま
けた太りすぎが体からも心からも若さを追いだしてい
るようです。物忘れのひどいこと、認知症を疑ってしま
います。と嘆いてばかりいられないので、これから
心身ともにダイエットせねば!◆読書家の0さんに教
えていただき、百年文庫(ポプラ社)を入れました。100
冊の各冊に4つ5つの文学作品が掲載のテーマ別アン
ソロジーです。みんな一文字のタイトルに括られてい
ます。憧とか闇とか駅とか店とか崖とか婚とか城とか
悌とか...古今東西の作家がまな板に乗せられて...
編者はどんな人たちでしょうね。同じ版元で出した『百
年小説』は1巻もので、ずっしり重く借りてゆかれる
方はないようですが、こちらは文庫本(新書サイズ?)
で厚くないので読みやすいですし、どの巻からでも読
み始めることが可能です。ご愛読ください。◆私年代
以上の邦画好きの人ならご存知の山田五十鈴さんが亡
くなりました。大好きな女優さんで、どんな役でも立
ち姿の見事な人でした。◆私事で恐縮ですが、20日ほ
ど前、私の母も他界しました。同年でした。この文庫
も母なくしては存在しえないものでした。母も山田さ
んのように、よく働きよく学び貪欲に吸収し、よく楽
しんだ人でした。この地が大好きでした。◆今月は会
員更新月です。次年度もよろしくお願ひします。(西村)

連絡先: 沙羅の樹文庫

☎0557-51-3737

～伊豆の暮らし～ 2012.7.12

毎日のように、波の音が聞こえるところまで車を走らせ、海を見て過ごした。そんなある日、「森のボランティア」の募集記事を見て、夫と参加することにした。

竹林を整備し、竹炭を作るために、間伐、竹の節取り、結束など…。みんなそれぞれ、自分にあった作業を行う。静かな竹林の中で、そよ風を感じながら、空を見上げる。自然の素晴らしさに、深呼吸する。

森ボラに見えていた方から、沙羅の樹文庫を教えてください。文庫では、たくさんの本を見ただけで幸せを感じる。絵本の部屋で真剣に本をさがしている子どもたちの様子、おはなし会での輝く目。そして姫沙羅の樹の下のベンチから眺める空も、美しい。開館5周年記念に出来た「沙羅の樹文庫の歌」は、時々家で口ずさむ。一ヶ月に開く2日が楽しみだった。

でも「まちこん伊東」の＜伊豆を学ぶ＞という講座を受講するようになり、日時が重なり、なかなかいけなくなってしまったことが残念である。＜伊豆半島ジオパーク構想＞を知り学ぶのも楽しい。分からないことは夫に聞いたり話し合うことも出来る。いつも眺めていた大室山や家の近くの断層なども違って見えるようになった。

「伊豆ジオ推進協」の初級レベルの検定試験も受けてみた。日々の暮らしは、数年前とは違う楽しさに溢れている。時間をやり繰りして楽しんでいる私たちに、子どもたちも安心しているようだ。

師から教えていただいた、心に残る一言を一日の終わりに考える。「昨日より今日 今日より明日が、自分として進歩、または充実していれば、それでよし。一日を何となく過ごすということは許せない。それが私のモットーです」と仰っていた。だから、何となく過ごしてしまった日でも反省し、それでよし、と思えることを見つけてみる。

自然豊かな伊豆の暮らしも 8年目。大切な友との出会いもあり、趣味も増え、感謝しながら過ごして

お借りした本についての感想

2012年7月10日 By 森林浴

『津波と原発』佐野真一著 講談社刊 2011年6月第1版

震災直後の3月18日に南三陸町に入って書いた大津波について66ページ、4月25日に、立ち入り禁止になった双葉町に入ってから書いた原発関係は170ページ。いずれも著者が過去に積み重ねてきた人脈や、過去に書いたレポートがよく生かされている。著者は必ず歴史を調べる。福島原発が建設されるまでの長い歴史が面白く説得的だ。

『大陸へーアメリカと中国の現在を日本語で書く』リービ・英雄著 岩波書店刊 2012年4月第1版

大陸とは、アメリカ大陸と中国大陸。此の人の日本語は時々読み難いケースもあるがまあ完璧だし、中国語もできるらしい。アメリカでは人種問題（黒人問題）、中国では最底辺の農民の実態を自分の足と目で確認して行く。ヒデオ（英雄）という名前はなんとワシントンに住んでいた少年時代、隣人一日系人一から貰ったものだという。

『昨日のように遠い日』少年少女小説一選 柴田元幸編 文藝春秋 2009年3月刊

この本は現代英米文学の翻訳の第一人者（と私は信じているが）柴田元幸が作品を選び、チームを作った5人で手分けして翻訳したものらしい。「少年少女小説」（童話と大人の文学の中間・中継ぎの作品という意味か）という新ジャンルを創設したわけだ。たった8行しかない作品もある。久しぶりに「文学的香気」！を味わった気がする。付録の漫画2枚もやたらに面白い（どれも「うまうまと騙された！」と悲鳴を上げさせるように出来ている。）

『空腹が人を健康にする』南雲吉則著 サンマーク出版刊 2012年4月第22版

何と第1版が1月、4月には第2版、帯にも「30万部突破」と景気がよい。最近健康に関する本がよく売れるようだ。1日1食で健康に、という著者の主張は分かる気もするが、3食がいけないとも思えない。お茶には毒の成分が入っているとも書いてある

が、静岡県のお茶農家はあまり喜ばないかも。

『墮落と文学 作家の日常、私の仕事場』曾野綾子著 新潮社刊 2012年4月刊

ある新聞に載っていた曾野さんの発言に一寸驚いたことがある。東日本大震災のある被災者が、早くまた安心して暮らせる生活に戻りたい、と言ったのに対し、彼女は「安心して暮らせる生活なんてものはそもそもあり得ない、私なんかいつでも不安の念に付きまといわれている」と。

この本を読むとこんな発言が出る彼女の背景がよく分かる。彼女は徹底したリアリストであって、感傷や単純なヒューマンイズムはてんから信用しない人である。カトリック信者としてインドの癲病院（彼女は差別語禁止も許せない）で働いたり、電気も水道も無いアフリカの最貧国で援助活動してきた彼女にとっては、現代日本人の自分の恵まれ過ぎた安穩が当たり前という考えが許せない。亡くなった上坂冬子さんとともに硬派の論客として有名な、いわば「女の石原慎太郎」というところか。

新しく入った大人の本 2012.7

『降霊会の夜』（浅田次郎著 朝日新聞出版 12）

『最果てアーケード』（小川洋子著 講談社 12）

『七夜物語 上・下』（川上弘美著 朝日新聞出版 12）

*対象が小学生～一般のため、登録ナンバーは児童書オレンジです。

『冥土めぐり』（鹿島田真希著 河出書房新社 12）

『新月譚』（貫井徳郎著 文藝春秋 12）

『もういちど生まれる』（朝井りょう著 幻冬舎 11）※上記3冊、目下芥川賞直木賞、候補

『ハーバード白熱日本史教室』（北川智子著 新潮社 12）

『老けない体は股関節で決まる!』（石部基実著 すばる舎 12）

『ヒトリシズカ』（菅田哲也著 双葉文庫 12）

『ピブリオ古書堂の事件手帖3』（三上延著 メディア・ワークス文庫 12）

『禪、シンプル生活のすすめ』（柘野俊明著 三笠書房 09）

★『百年文庫』（ポプラ社）の内容と寄贈本は別紙掲載★

♥♥♥本の返却についてのお願い:返却予定日にやむを得ず来られない場合は、連絡を入れて、次の月には必ず返却くださるようお願いいたします。順番を待っている方もいます。本はみんなのものです。♥♥♥

2012年7月入庫の寄贈本

『東京日記 卵一個ぶんのお祝い』(川上弘美著 平凡社 05) 『愉しみ流 フランスロマネスク案内』(金子倅子著 新風舎 06)

『カノン』(篠田節子著 文春文庫) 『トットのピクチャー・ブック』(黒柳徹子著 武井武雄絵 新潮文庫) 『香港の甘い豆腐』(大島真寿美著 小学館文庫)

『ここはどこ一時に空飛ぶ三人組』(岸田今日子・吉行和子・富士真奈美著 文春文庫) 『アルケミストー夢を旅した少年』(パウロ・コエリョ著 山川紘矢・山川亜希子訳 角川文庫)

『イグアナくんのおじゃまな毎日』(佐藤多佳子著 中公文庫)

『ダヤン、わちふいーるどへ』(池田あきこ著 中公文庫) 『チェロと旅』(日本エッセイスト・クラブ編 文春文庫)

『世界屠畜紀行』(内澤旬子著 角川文庫)

『あしながおじさん』(J・ウェブスター著 松本恵子訳 新潮文庫) 『嘘つきアーニャの真っ赤な真実』(米原万里著 角川文庫)

♥寄贈くださったみなさま、ありがとうございました♥

「百年文庫」(ポプラ社) 100分冊・内容

1 『憧』(女生徒：太宰治著 ドニイズ：ラディケ著 堀口大學訳 幾度目かの最期：久坂葉子著)

2 『絆』(善助と万助：海音寺長五郎著 五十年後：コナン・ドイル著 延原謙訳 山椿：山本周五郎著)

3 『暈』(馬乃文章：林芙美子著 ある結婚式 獅子文六著 軍国歌謡集：山川方夫著)

4 『秋』(流行感冒：志賀直哉著 置き土産：正岡容著 秋日和：里見淳著)

5 『音』(台所の音：幸田文著 深川の鈴：川口末太郎著 斑鳩物語：高浜虚子著)

6 『心』(正直な泥棒：ドストエフスキー著 秋：芥川龍之介著 田舎：プレヴォー著)

7 『闇』(進歩の前哨基地：コンラッド著 暗号手：大岡昇平著 聖ジュリアン伝：フロベール著)

8 『罪』(第三の鳩の物語：ツヴァイク著 小さな出来事：魯迅著 神父セルゲイ：トルストイ著)

9 『夜』(夜の樹：カポーティ著 曲がった背中：吉行淳之介著 悲しいホルン吹きたち：アンダスン著)

10 『季』(白梅の女：円地文子著 仙酔島：島村利正著 玉碗記：井上靖著)

11 『穴』(断食芸人：カフカ著 鶴：長谷川四郎著 二十六人とひとり：ゴーリキイ著)

12 『釣』(白毛：井伏鱒二著 幻談：幸田露伴著 二閑人交遊図：上林暁著)

13 『響』(ベートーベンまいり：ヴァーグナー著 ク

レスペル顧問官：ホフマン著 エゴイストの回想：ダウスン著)

14 『本』(煙：島木健作著 シジスモンの遺産：ユザンヌ著 帰去来：佐藤春夫著)

15 『庭』(庭の眺め：梅崎春生著 白いウズラ：スタインベック著 金魚撩乱：岡本かの子著)

16 『妖』(夜長姫と耳男：坂口安吾著 光る道：檀一雄著 秘密：谷崎潤一郎著)

17 『異』(人でなしの恋：江戸川乱歩著 人間と蛇：ピアス著 ウィリアム・ウィルソン：ポー著)

18 『森』(ロイド老嬢：モンゴメリー著 鼻のささやき：ジョルジュ・サンド著 カプリワラ：タゴール著)

19 『里』(朴樹の下駄：小山清著 罪な女：藤原審爾著 今戸心中：広津柳浪著)

20 『掟』(爪王：戸川幸夫著 焚火：ジャック・ロンドン著 海辺の悲劇：バルザック著)

21 『命』(レナ・ヴィース：シュトルム著 最後の一片：オー・ヘンリー著 お守り：ヴァッサーマン著)

22 『涯』(異父兄弟：ギャスケル著 パヴェーゼ著 中山義秀著)

23 『鍵』(塀についたドア：H・G・ウェルズ著 わかれ：シュニッツラー著 第六七二夜の物語：ホーフマンスタール著)

24 『川』(蛭：織田作之助著 吉備津の釜：日陰丈吉著 津の国人：室生犀星著)

25 『雪』(母：加能作次郎著 東北の女：耕治人著 女

中ッ子：由紀しげ子著)

26巻からの内容は8月に掲載します。